



いばらきしりつぶんかざいしりょうかん

いばらきの 歴史を探ろう!

中世

編



Ibaraki Municipal Cultural Properties Depository

茨木市立文化財資料館



日本の歴史年表とともにふりかえる

いばらきの歴史 中世編

	和暦（西暦）	主な日本の出来事	いばらきの歴史
平安時代	11世紀後半		この頃、 たる みりがしのまき にしのまき 垂水東牧、西牧が成立
	文治元（1185）		この頃、 よりもと 太田太郎頼基が活躍
鎌倉時代	建久3（1192）	源頼朝、鎌倉幕府を開く	
	元弘3（1333）	鎌倉幕府ほろびる	
	暦応元（1338）	足利尊氏が征夷大將軍になる	
	正長元（1428）		いばらき 茨木氏の初見
室町時代	応仁元（1467）	おうにん 応仁の乱がおこる	
	天文18（1549）	キリスト教伝来（フランシスコ・ザビエル鹿児島に上陸）	
	元亀2（1571）		白井河原の合戦、茨木氏滅亡
	天正元（1573）		
	天正5（1577）	室町幕府ほろびる	なか がわきよひで 中川清秀が茨木城に入る
	天正6（1578）		たかやま う こん 高山右近がいばらきの山間部を治める
安土・桃山時代	天正10（1582）	本能寺の変、 たいこうけん ち 太閤検地開始	この頃、いばらきの山間部にキリスト教伝来か
	天正13（1585）		とよとみひでよし ちよかつち 豊臣秀吉の直轄地となる
	天正14（1586）		あ いりょうさ 安威了佐が茨木城に入る
	文禄3（1594）		かわ じりひで なが 河尻秀長が茨木城に入る
	慶長5（1600）	関ヶ原の戦いがおこる	
	慶長6（1601）		かた ぎり 片桐氏が茨木城に入る
江戸時代	慶長8（1603）	とく がわいえ やす 徳川家康、江戸幕府を開く	
	慶長19（1614）	大坂冬の陣がおこる	
	元和元（1615）	大坂夏の陣がおこる	
	元和3（1617）	いっごくいちじょうれい 一国一城令の発布	茨木城がとりこわされる

史跡マップ

遺跡・史跡

- 1 垂水東牧 たる み づい の ぼり
- 2 弥勒堂 みろくどう
- 3 太田頼基の墓・太田城跡 はか おお たのき
- 4 勝尾寺町石 (本源寺) かつ お じしょう せき ほんげん じ
- 5 ぼろ塚 つか
- 6 佐保の石槽 さ ほ せき そう
- 7 銭原の石槽 ぜにはら せき そう
- 8 忍頂寺五輪塔 にんちょうじ ごりんとう
- 9 地福寺石造五重塔 ぢ ふく じ せき ぞう ごじゅうのとう
- 10 春日神社石灯籠 かす が じん じや いしどうろう
- 11 大岩八幡神社五輪塔 おおいわ はちまん じん じや ご りんとう
- 12 天正二年銘磨崖仏 ま がいぶつ
- 13 福井城跡 ふく い じょうあと
- 14 泉原城跡 いずはら じょうあと
- 15 三宅城跡 み やけ じょうあと
- 16 郡山城跡 こおりやま じょうあと
- 17 安威城跡 あ い じょうあと
- 18 穂積城跡 ほ つみ じょうあと
- 19 水尾城跡 みず お じょうあと
- 20 沢良宜城跡 さわ ら き じょうあと
- 21 目垣城跡 め がき じょうあと
- 22 佐保クルス山砦 さ ほ やまとりて
- 23 梅林寺 ばいりん じ
- 24 茨木城跡 いばらき じょうあと
- 25 茨木神社東門 いばらき じん じや ひがしもん

- 26 妙徳寺門 みょうとく じもん
- 27 白井河原の合戦跡 かつ せん あと
- 28 馬塚 うまづか
- 29 糠塚 ぬかづか
- 30 和田惟政供養塔 わ た これまさ く ようとう
- 31 木村常陸伊基碑 き むら ひたちのすけ ぼ ひ
- 32 片桐且元在城碑 かたぎりかつもと ざいじょうひ



茨木市立
文化財資料館



中世のいばらき周辺

中世においては近畿地方とその周辺で、^{ど こう}土豪・^{ちざむらい}地侍とよばれる武士たちが活発に活動していて、多くは^{しやうえん}荘園の^{しやうかん}荘官（現地管理者）として成長していきました。また、地域のリーダーとなり、周辺にも影響をもつようになったものを^{こくじん}国人とよび、^{じやうかん}彼らは城館を築いていました。



いばらきには
茨木氏がいた
んだよ。

この時代の城は、天守閣
があるような立派な城で
はなかったんだ。



いばらきの武士

10世紀ごろから豪族や有力な農民は武芸にはげみ、自分の土地を守るようになり、武士が誕生します。また、源氏や平氏のように政治の実権をにぎるものも現れます。源頼朝は將軍となつて鎌倉に幕府を開き、各地を支配するために守護と地頭を置きました。

源平合戦のときに平氏を倒すために集められた武士のなかには、いばらきの太田出身の太田太郎頼基という人物がいました。

『平家物語』のなかには、太田太郎頼基が、兄の源頼朝と仲違いした源義経と戦ったことが書かれているんだ。



太田太郎頼基の墓

鎌倉幕府の將軍と御家人(武士)の関係

將 軍

幕府の政治や軍事の最高司令官
御家人の領地を認めて守ってあげる
手柄を立てた御家人に新しい領地(ほうび)を与える

こ おん
御 恩

ほう こう
奉 公

御家人

將軍と主従関係を結び、戦いがおきたらかけつける
守護や地頭になって領地を守る
守護：御家人のとりしまり、軍事・警察の仕事
地頭：莊園のとりしまり、税のとりたて

茨木城

なか がわ きよひで

織田信長や豊臣秀吉に仕えた武将である中川清秀が城主となったお城です。中川清秀はお城だけではなく、城下町の整備をしました。中川清秀が亡くなったあとは、片桐且元らが城主となります。徳川家康がだした「一国一城令」によって、元和3年(1617年)、茨木城はとりこわされます。しかし、町は在郷町として続き、現在の茨木の町のルーツになっています。

かた ぎり かつ もと

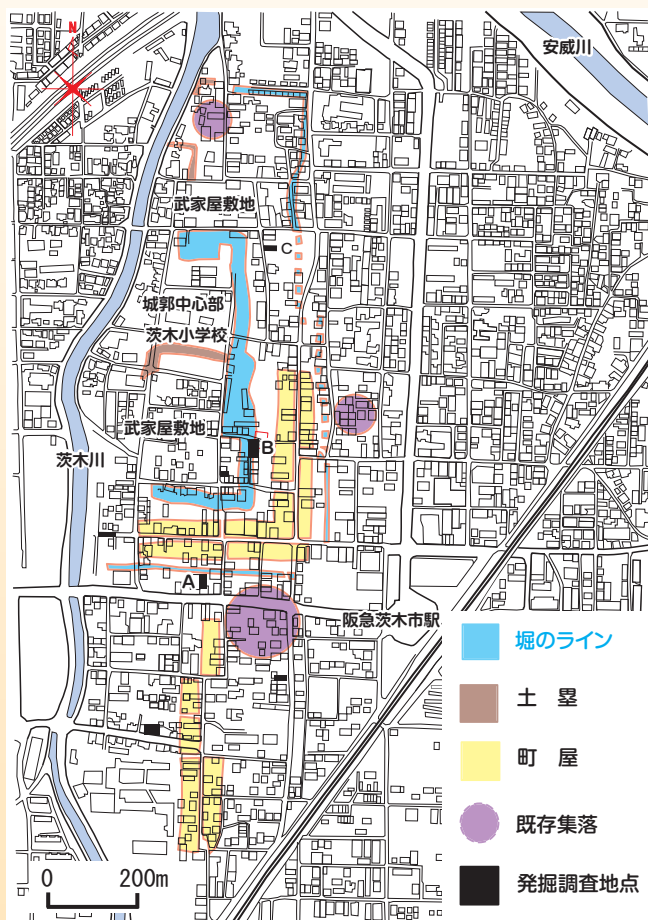
げん な

ざい こう ちょう

今の茨木小学校の
しょうかく
ところに城郭の中
心があったんだ。



お城の外に、町が
広がっていたこと
がわかるね。



茨木城復元図 (中西裕樹さん作成に加筆)

現在に伝わる茨木城の門

茨木神社（茨木市元町）の東門は茨木城につかわれていたからめて搦手門（裏の門）と伝わっています。茨木神社の奥にある、あまのいわとわけじんじゃ天石別分神社を中川清秀は保護していました。



茨木神社東門



妙徳寺門

みょうとく じ妙徳寺（茨木市片桐町）の門も茨木城につかわれた門と伝わっています。妙徳は、茨木城主であった中川清秀の娘のほうみょう法名です。

じ こういん慈光院はやま とこおりやま奈良県大和郡山市にあるお寺です。この山門はろうもん茨木城の楼門と伝わっています。このお寺は茨木城主であった片桐且元おいの甥によって建てられました。



慈光院山門



400年前のお城の門が現在に
伝わっているなんてすごいね！

茨木遺跡

茨木城があった範囲の地下には、茨木遺跡がねむっています。茨木城の東堀^{ほり}があったと考えられていた場所の発掘調査では、堀と考えられる遺構が見つかりました。そのなかには16世紀から17世紀にかけての土器や瓦とともに、木製の欄間^{らんま}、遣り戸^{やど}、障子^{しょうじ}、化粧板^{けしょういた}などが見つかりました。



欄間などが見つかった様子



発掘調査の現場って
こんな感じなんだね。



欄間や遣り戸はおり
かさなってみつた
んだね。

見つけた遺物

茨木遺跡で見つけた二つの欄間は立派なものであることから、
茨木城もしくは大きなお寺で使われていたものだと考えられています。
見つけたものをそれぞれ、見てみましょう。



欄間 (小)



欄間 (大)



遣り戸

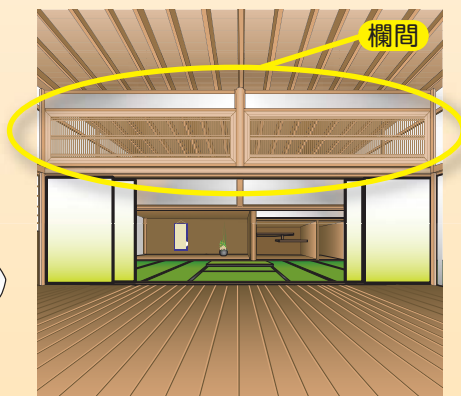


障子



欄間って、部屋と
部屋の間に使われ
ていたんだね。

欄間は古い家だと、
今でも見ることが
できますよ。



いばらきへの基督教の伝来

日本に基督教がもたらされたのは、天文^{てんぶん}18年(1549年)、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に布教したことによります。その後、イエズス会の活動によって、日本で広まっていき、三島^{せんきょうし}にも宣教師が訪^{たかやま}れました。いばらきには、高槻城主で基督教の信者であった高山^{うこん}右近^{せんたいし}が、一時期、千提寺・下音羽^{しもおとわ}などのいばらきの山間部を治めたことで、伝わったと考えられます。

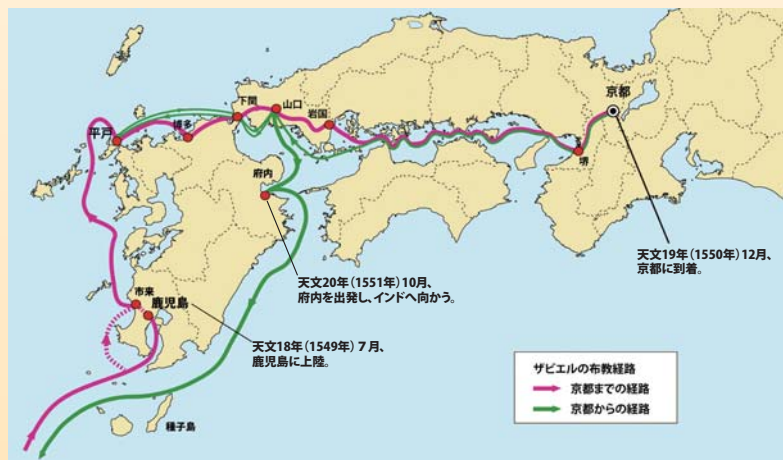
江戸時代を通じて、基督教の信仰は禁止されましたが、いばらきの山間部では信仰が続けられました。



有名なザビエル像は、千提寺の民家で大切に伝えられてきたんだよ。



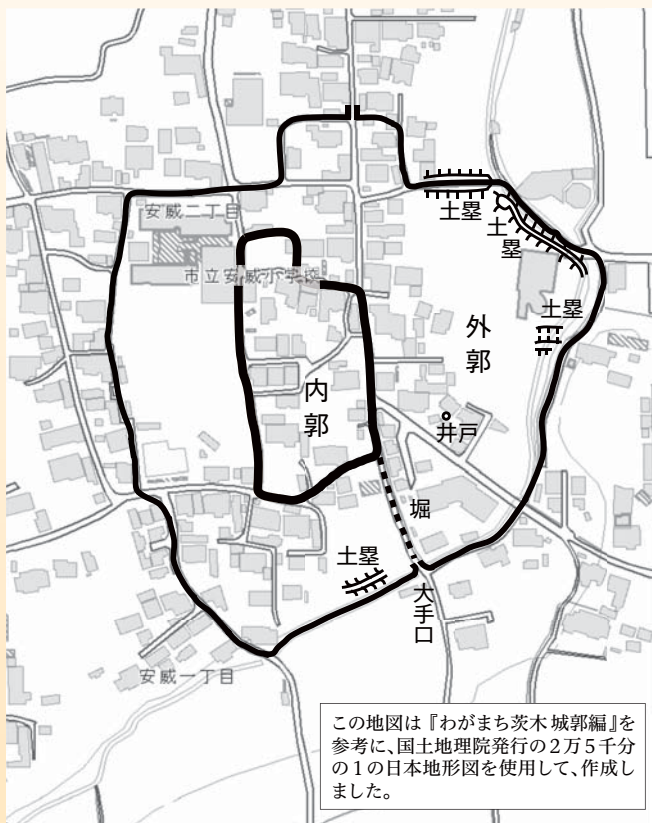
聖フランシスコ・ザビエル像
(神戸市立博物館所蔵)



日本におけるザビエルの布教活動

高山右近と安威了佐

いばらきを含む三島には、豊臣秀吉が信頼し、キリシタンでもあった高山右近と安威了佐がいました。高山右近（洗礼名ジュスト）は、高槻城下に多くの信者を集め、復活祭を行いました。安威了佐（洗礼名シモン）は、摂津国安威（現茨木市大字安威）が出身地で、秀吉とイエズス会のコエリヨの面会で、おもてなしをし、キリスト教の保護に尽くしました。



安威城跡

右近の父親の高山
ひたのかみ
飛騨守もキリシタ
ンだったのです。



了佐の父親の弥四郎^{やしろう}
は、安威城主として
室町時代に活躍した
人だよ。



なか がわ きよ ひで
中川清秀

中川清秀は織田信長や豊臣秀吉の下で活躍した安土・桃山時代の武将です。

天正5年(1577年)頃、茨木城主となります。本能寺の変で信長を討った^{あけ ち みつひで}明智光秀と戦う山崎の合戦では、高山右近とともに秀吉軍の先陣をつとめ、活躍します。しかし、その翌年^{しば た}の柴田勝家^{かついえ}と戦う賤ヶ岳^{しず が たけ}の合戦で亡くなりました。



いばらきには、
こんなすごい武
将がいたんだね。

中川清秀像 ^{ばいりん し} (梅林寺所蔵)



～中川清秀の性格をあらわすエピソード～



山崎の合戦が終わった後、秀吉が陣中を見回っているときに、清秀^{せ ひょうえ}に「瀬兵衛(清秀のこと)、骨折り」と声をかけました。

清秀はそれに対して、大声で「サルめ、はや天下をとった気でおるわ!」とわざと聞こえるように言ったと伝わっています。勇ましい清秀の性格がうかがえるエピソードです。

中川清秀の子孫

中川清秀が亡くなったあと
ひでまさ あと つ
は、長男である秀政が跡を継ぎます。しかし、秀吉がおこなった朝鮮出兵の際に、亡くなります。

その後は、次男である秀成
ひでしげ
が跡を継ぎます。秀成は現在
たけ た ふんこの
の大分県竹田市にあたる豊後
くに おかはん
国岡藩の藩主として、江戸時代を迎えることになります。



ひでしげ へきうん し
中川秀成 像（碧雲寺所蔵）



中川清秀の子孫は
参勤交代の途中に
いばらきに立ち寄
っていたんだ。

豊後にいっても、
いばらきと縁が
あったんだね。



～中川清秀が結ぶ茨木市と竹田市のつながり～



中川家のつながりが一つのきっ
かけとなり、平成25年（2013年）
に茨木市と竹田市は歴史文化姉妹
都市提携を結びました。



かた ぎり かつ もと

片桐且元

片桐且元は、^{こうじ}弘治2年(1556年)に近江国(現在の滋賀県)に生まれ、豊臣秀吉の家臣として活躍した武将です。

^{けいちよう}慶長5年(1600年)に、豊臣方と徳川家康の間で争いが生まれ、関ヶ原の戦いが起きます。戦いののち、且元は豊臣家と徳川家のパイプ役をはたします。その後、慶長19・元和元年(1614・1615年)の大坂冬の陣・夏の陣で豊臣家はほろびることになります。



片桐且元像(慈光院所蔵)



中川清秀が討ち死にした賤ヶ岳の合戦で活躍して、七本槍ってよばれたんだよ。



豊臣家がほろんだ同じ月に且元は亡くなるんだ。



片桐且元在城の碑

慶長の大絵図

片桐且元は、徳川家康の命令により、村名や村高^{むらただか}（村の生産力）をまとめた郷帳や絵図を作成しました。この絵図も、慶長10年（1605年）に片桐且元によって作成されたもので、摂津国の村や城郭、寺社の位置、村高^{しる}などが記されており、この時期の摂津国の状況を知ることができる大変貴重な史料です。



慶長十年摂津国絵図（西宮市立郷土資料館所蔵）



茨木城もあるね。

いばらきの地名が、
の
いっぱい載ってますね。



キャラクター紹介



● いすずちゃん
いばらき生まれのおひめさま。
めずらしいものや新しい発見が
大好き。



● たまくしひめ
いすずちゃんのお母さん。
怒ると大雨をふらせる。

● みぞくいみみのかみ
いすずちゃんのおじいさん。
村の長老。



● かまたりくん
いばらきを愛する男の子。とても物知り。趣味は日本の未来を考えること。



● ひがしならくん
元気な弥生人の男の子。ごはん(お米)を食べるのが大好き。銅たく製作工房の見習い。

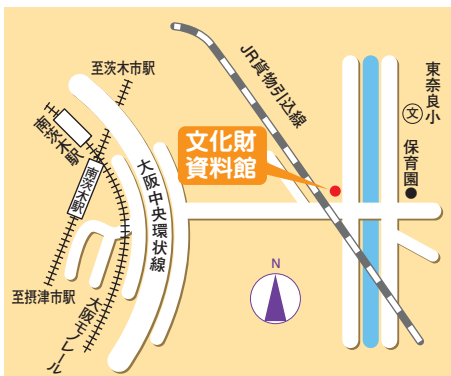
利用案内

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎週火曜日(その日が祝日の場合を除く。)
祝日の翌日(その日が日曜日の場合を除く。)
12月29日～翌年1月3日

入館料 無料

お願い 他の見学者に迷惑のかからないように
静かにご覧ください。



茨木市立文化財資料館

〒567-0861
茨木市東奈良三丁目12番18号
電話 (072) 634-3433
FAX (072) 637-4745
市ホームページ
<http://www.city.ibaraki.osaka.jp>
阪急南茨木駅下車東へ300m

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



このパンフレットは5,000部作成し、1部あたりの単価は55円です。